

2025 年 10 月 31 日

臨床データ利用のお願い

海南病院では、以下の研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報を研究目的に利用されることをご希望されない場合などお問い合わせがありましたら、お手数ですが以下の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

進展型小細胞肺癌患者の化学療法前の血小板関連指数を用いた予後予測についての検討

2. 研究責任者

海南病院 呼吸器内科 第一呼吸器内科部長 中尾心人

3. 研究の概要

肺癌の日常診療において採血検査で測定される血小板数および血小板関連指数は、初診時や治療開始前にルーティンで測定されることが多い項目です。近年これらの採血項目で算出できる指標が、肺癌を含めた癌患者さんにおける治療効果および予後予測マーカーになるのではないかと報告されています。具体的には血小板数、平均血小板容積 (MPV : Mean Platelet Volume)、血小板分布幅 (PDW : Platelet Distribution Width)、血小板クリット (PCT : Plateletcrit)、大型血小板比率 (P-LCR : Platelet-Large Cell Ratio) などです。しかし、プラチナ併用化学療法を行った進展型小細胞肺癌患者さんでの血小板数および血小板関連指数の予後予測における有用性を検討した研究は少なく、特に日本人集団においてはまだ十分なエビデンスがないのが現状です。

そこで、当院で診断および治療を受けられた進展型小細胞肺癌患者さんの予後や 1 次治療 (プラチナ併用化学療法) の効果が、治療前の血小板数および血小板関連指数と関連性があるかを検討することを主目的とした、後方視的な臨床研究を行うことにしました。具体的に対象となるのは、2009 年から 2019 年の間に進展型小細胞肺癌と臨床診断され、プラチナ併用化学療法を受けられた患者さんです。血小板数と MPV、PDW、PCT、P-LCR といった値は、通常の診療において施行される採血で既に測定されており、対象となった患者さんの背景や治療開始前後の臨床的特徴を後方視的に把握することは、新たな侵襲が無く、今後の肺癌診療を行う際に有用な情報が得られるものと期待されます。

4. 研究方法

① 対象となる患者さん

2009 年 1 月から 2019 年 12 月の間に進展型小細胞肺癌と診断されプラチナ併用化学療法を行った患者さん。

② 使用する試料等

残余検体：使用しない。

カルテ情報：使用する。

カルテ情報から、治療開始時の患者背景や、血小板数、MPV、PDW、PCT、P-LCR といった検査データ、および治療後の経過などを後方視的に抽出します。尚、データ収集は 2022 年 6 月 30 日時点でのデータを基準とします。

5. 個人情報の取扱い

貴重な患者さんの個人情報は、「個人情報保護法」及び「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」など各種法令に基づいて管理します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

6. 問い合わせ先・相談窓口

JA 愛知厚生連 海南病院 呼吸器内科 中尾心人

電話：0567-65-2511（代表）